

# まいつるパートⅡ

令和5年度 No.19 校長室だより

通算No.37 (R5. 12. 22)

霧島市立国分小学校長

## ☆ 児童期から思春期にかけて育てたい心の機能～教育心理の視点から～ No.5 ☆

### ⑥ 意欲と行動（続き）

#### 【動いたときに強くなる】

- 弱いから動けないのではない。動かないから弱いままなのだ。動けば必ず何かが変わる。動けば必ず何か分かる。動けば必ず何かが身につく。動くことによって強くなる。考えてばかりでは何も変わらない。

#### 【全ての条件が整うことはない】

- 全ての条件が整わないと動けない人は、結局、動かないままで終わる。全ての条件が整い、機が熟すのを待つ。しかし、そんな状況を待っていたら、いつまでも何も始まらない。
- 全ての条件が整うことにこだわらなくてよい。始める時に全ての条件が整っていることはない。

#### 【動きながら修正する】

- 動く前から完璧な計画を立てることはできない。とにかくまず動く。事前に先の先までわからない。
- 動きながら見えてきたことに、その都度、修正していけばよい。現実はその繰り返しだ。
- 拙速にも効用はある。考えてばかりだと堂々巡りで終わる。

### ⑦ 抽象的な原理・原則を考える力

- 各学校の校訓は、「勇氣」、「誠実」、「友情」といった抽象概念で示される。こうした抽象的な原理・原則を具体的な場面に生かすとしたら、どう行動すればよいのかを自分で判断し、考えだす力が必要である。→抽象を具象におろして考える力
- こうした力の育成のためには、抽象的な原理・原則を与えて、それを基準にして具体的な場面で自分で判断し、行動する練習や習慣が必要。こうした経験の中で自主性、判断力が育つ。
- こうした経験をしていないと、具体的な個々のケースを逐一想定した指示をもらわないと自分で動けない人間になってしまう。
- この力を育成するためには、本人に任せる度量が必要である。失敗させる度量が必要だ。失敗が許されないと、思考停止になってしまい、自分で判断しようとする意志がなくなる。

### ⑧ 恥と失敗と傷つきと

- ちょっとした「恥と失敗と傷つき」を致命傷と思い込む人がいる。恥や失敗の意味は「恥をかいでも、失敗しても大丈夫だった」という経験をする事。
- 「このぐらいいは大丈夫だ」「このぐらいいは自分で立て直すことができる」と自分に言い聞かせることができるようになること。
- 失敗や恥を恐れる理由は、「どこまでは大丈夫で、どこからは大丈夫でないかというラインが分からないから」
- 小学校高学年及び中学生になると、皆、自分のことで精一杯で他人の気持ちを思いやっている余裕がない。「私はあなたの言葉で傷つきました」と言っても、「私は私が言いたいことを言っただけ、アンタが勝手に傷ついているだけでしょ」と開き直られると対応策がない。先述のように、「不快体験を自分で行動し、工夫することによって快体験に変える術」を学習しておく。自分で自分の心を立て直す練習が必要である。